

總同盟の暴力行爲の大醜態を見よ

六月十一日午前八時伊藤仙太郎工場作業場に於て、東京鐵工組合所屬八十名は突如同工場従業員永田義雄、高島増太郎、渡邊清志、稻垣軍藏、道村重雄、渡邊彌一郎の六名を鐵棒其他の兇器を以て毆打し、渡邊(清)、稻垣道村は重傷人事不生成に落り目下北條病院に入院加療中、他の三名も重傷して病床に横たわつてゐる此の總同盟組合員の組織的な大暴行は、直ちに川口署の知るころこなり間髪を入れずして加害者の檢舉は始まり、目下檢事出張して、本事件の徹底的取調にかゝりつゝある。

總同盟東京鐵工組合は、労働者をして同じ労働者を毆らする無頼の徒輩であるこの正体が愈々社会的に暴露されたのだ。

總同盟はなぜ暴力的手段を取つたか

伊藤工場の従業員は東京鐵工組合と、我が關東合同労働組合との二組合に加盟してゐた。

總同盟は過る日十三ヶ條の要求を伊藤工場に提出した、伊藤工場主は中十二ヶ條の労働條件改善案を承認した、あこ一ヶ條は「組合公認」問題であつた。工場側は、此の「組合公認」を承認すれば關東合同の組合員を首切らざるを得ないし、又他の職工も雇われないので、遂に「組合公認」案は承認しなかつた。斯くて、遂に交渉決裂し五月二十一日より總同盟指導の下にストライキは行われた。

我が關東合同川口支部は、次の如き意味に於て總同盟に共に戦線を申込んだ。

(一) 組合公認問題は労働者共同の利益に反するから撤去せよ

(二) 他の労働條件改善の要求ならば更に共同して闘争しよう

然るに總同盟は之を拒絶した。

我々が組合公認反対の態度を取つた理由は、

(一) もし此の案が通れば、合同の組合員又は東京鐵工に加盟せざる労働者は、伊藤工場から首切られずに總同盟から首を切られることになるのだ。

總同盟は、此の惨虐な手段を弄して、既に東京製鋼會社並に東京岡部電氣工場で多數の労働者を手當なして首切をやつた、又總同盟は組合公認した會社から幹部の給料をもらつて労働者搾取の手代をする。現に總同盟幹部中多數の資本家雇幹部が得々として活動してゐる。

故に總同盟の組合公認なるものは、労働者の利益を守るべきものに非らずして總同盟一部幹部の「労働者食ひ」の爲めの手段であり方法である

今 日本全國の労働団体は、此の醜惡なる「組合公認」の常套手段者總同盟をダニの如くに嫌ひ彈該してゐるのである。

總同盟は純眞なる川口町労働者を食ひものにしやうとして、此處に亦々「組合公認」の要求を出したのだ。

總同盟の様な労働者を食ひものにする様な組合に取つては、關東合同労働組合の如き正々堂々と労働者の眞の利益を守る組合の勢力あることは恐ろしいのだ今度の組合公認要求は暗に同工場から合同の組合員を追出さんとする非階級的陰謀であつたのだ。

故に我々は斷乎として組合公認に反対した、關東合同の共同戦線を拒絶した總同盟は、遂に組合公認の要求を撤去し、責任解雇者を承認し、最近稀れに見る大惨敗をして、伊藤工場争議を打ち切つた。

今回突如として、高嶋君外五名の合同組合員に致命傷を負はせたのは「道理ではゐない」ので「暴力でやつける」と言ふ卑劣極まる陰謀の結果の出來事である。